

平成25年度 茨城大学人文学部PBL授業 プロジェクト実習B

活動報告会

日時 平成26年
1月25日(土)
10:45-16:00

会場 常陸太田市 里美文化センター
茨城県常陸太田市折橋町623

主催 茨城大学人文学部(市民共創教育センター)
常陸太田市

共催 茨城キリスト教大学 / 常磐大学 /
茨城大学大学教育センター

後援 泉町二丁目商店街振興組合(水戸市)

PBLとは

PBL (Project Based Learning) 技法は、昨今その教育効果の高さが注目されているアクティブラーニングの一種であり、「課題解決型学習」と訳されます。茨城大学では、2010年度以来、学生の就業力育成支援を目指す教育プログラム「根力(ねぢから)育成プログラム」の構築を進めており、その中核として PBL 技法に基づく授業を位置づけています。

担当教員より

今年度のプロジェクト実習は、人文学部学生を中心に教育学部・工学部、さらに単位互換協定を結んでいる茨城キリスト教大学・常磐大学の学生が参加しており、3チームに分かれて活発に活動しています。

いずれの活動においても地域の皆様と密接に連携させていただき、種々のご支援を賜りました。活動報告会では各チームから活動の成果をご報告させていただくとともに、皆様からの率直なご意見をいただければ幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文学部教授 鈴木 敦

各チームのプロジェクト概要

里川かぼちゃ復活チーム

常陸太田市里美地区の在来種「里川かぼちゃ」の商品開発と知名度向上

里美Caféチーム

常陸太田市里美地区の魅力を発見・発信

里美トラベルチーム

常陸太田市里美地区の魅力を知るツアーの企画・実施

活動報告後、
皆様の投票により
最優秀チームを
決定します!

活動報告会に関するお問い合わせは

☎029-228-8115 または

Eメール suzukia@mx.ibaraki.ac.jp 鈴木 敦まで

活動報告会

1 セレモニー・概要説明

10:45 ~ 11:45

- (1) 挨拶 伏見厚次郎 (茨城大学人文学部長)
- (2) 挨拶 梅原勤 (常陸太田市副市長)
- (3) 根力育成プログラム概要とプロジェクト実習の位置づけ 鈴木敦 (担当教員)
- (4) 里美地区との連携事業に関する経緯説明 鈴木敦 (担当教員)
- (5) 地域おこし協力隊の活動紹介と今後の展開 石川明紗・笹川貴吏子 (地域おこし協力隊)

2 昼食

11:45 ~ 13:00

3 学生チーム活動報告

13:00 ~ 14:45

- (1) 全体活動報告
- (2) プレゼンバトル
 - ①里川かぼちゃ復活チーム ②里美 Café チーム ③里美トラベルチーム
- (3) 最優秀チーム選定・講評

4 休憩

14:45 ~ 14:55

5 パネルディスカッション「今後の展開に向けて」

14:55 ~ 15:40

- 荷見誠・小林信房・豊田紀雄 (里美地区)
- 笹川貴吏子 (地域おこし協力隊)
- A・B・C (学生チーム)
- 佐藤啓 (常陸太田市総務部長)・井坂聡行 (常陸太田市〇〇〇)
- 内田聡 (茨城大学人文学部市民共創教育研究センター副センター長)
- 東海林宏司 (茨城キリスト教大学文学部長)
- 伊佐山忠志 (常磐大学副学長)
- 會澤孝一 (常陸太田市立里美中学校長)
- 宮本紘太郎 (水戸市泉町二丁目商店街振興組合)

6 閉会挨拶

15:40 ~ 15:50



プレゼンバトル終了後、皆様の投票により最優秀チームを選出します。最優秀チームは、2月13日の茨城大学フォーラム「アクティブラーニングの全学展開を考える」で活動報告発表を行います。

日時 平成26年
1月25日(土)
10:45-15:50

会場 常陸太田市 里美文化センター
茨城県常陸太田市折橋町623

車での行き方

- ① 常磐道・那珂インターの料金所を出て、分岐を右方向へ進む。
- ② 「東海・菅谷市街」の標識に従って県道65号線に入る。
- ③ そのまま道なりに県道31号線を進み、常磐道の高架をくぐる。
- ④ 「ひばりヶ丘」交差点を左折。(「常陸太田」方面)
- ⑤ 国道349号線に突き当たったら左折し、約30km直進。
- ⑥ 「折橋」交差点を左折すると右手に里美文化センター入口があります。

お問い合わせは _____
☎029-228-8115 または
Eメール suzukia@mx.ibaraki.ac.jp
茨城大学 鈴木 敦まで

根力育成プログラムの 概要と プロジェクト実習の 位置付け

茨城大学人文学部
プロジェクト実習担当教員
鈴木 敦

就職力と就業力

就職力：

面接対策などの、就職試験突破のための力

就業力：

就職活動時だけでなく、
就職後も活躍して行ける
ための種々の能力の総体



要するに・・・

大学生が、卒業時に
身につけておくべき能力

「学士力」・「社会人基礎力」

そして、「**根力(ねぢから)**」

「根力(ねぢから)」とは

茨城大学の学生が、
卒業時に

身につけているべき能力

根力の構成要素（大枠）

1. 基礎的素養
2. 社会生活力
3. 行動力
4. 思考力
5. チームワーキング力

根力の構成要素（詳細）

| | | |
|------------------------------------|-------------|--|
| 1. 基礎的素養 この素養の上に 「根力」を構築していく | 語学 | 文章読解能力、論理的思考力、分析力 |
| | 算数 | 文章作成能力、論理的思考力、分析力 |
| | シロ/ペン | 基本的な技能力 |
| 2. 社会生活力 | 話す | 説明能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力 |
| | 生活力 | 自立した生活を実践できる力 |
| 3. 行動力 | 情報収集力 | 生活を送る上で必要な、情報をどこにあり、どのようにすれば入手できるかを把握する力 |
| | 主体性 | 物事に進んで取り組む力 |
| | 実行力 | 他人の期待が重荷になり、進捗しない力 |
| 4. 思考力 | 実行力 | 目的を達成、結果に行動する力 |
| | 対応力 | 物事に臨み、疑問に思い、主体的に対応する力 |
| | 課題発見力 | 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力 |
| 5. チームワーキング 能力 | 計画力 | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力 |
| | 想像力 | 課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力 |
| | 課題解決力 | 課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力 |
| 6. チームワーキング 能力 | 責任力 | 自分の意見をわかりやすく伝える力 |
| | 理解力 | 相手の意見を丁寧に取り入れる力 |
| | 柔軟性 | 意見の衝突や立場の違いを克服する力 |
| | 状況把握力 | 自分と周囲の人や物事との関係性を理解する力 |
| | 規律性 | 社会のルールや人との約束を守る力 |
| | ストレスコントロール力 | ストレスの発生源に対応する力 |

茨城大学根力育成支援事業

1. 4年一貫の「根力育成プログラム」
2. アクティブラーニング(能動的学習)と
りわけ
PBL(課題対応型学習)技法の導入
3. 学生同士の相互教育体制
4. 学生の学びを学生自身と教職員が共有するための電子ポートフォリオシステムの構築

各種補助金

1. 文部科学省
大学生の就業力育成支援事業GP(2010~2011)
2. 文部科学省
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 (2013~2014)
3. 総務省
「域学連携」地域づくり支援事業(2012)
4. 総務省
過疎集落等自立再生緊急対策事業(2013)

根力育成プログラム

| 各段階の全学目標 | | 根力育成プログラム | |
|----------|---|-----------|--|
| 第一段階 | 根力育成プログラム 学生の自発的学びを促し、 社会で活躍するための基礎的な能力 ＝根力を育成するための土台を築く ①フレッシュマンゼミナール 高校生から大学生へ ②就業力育成ステップアップ系科目 自らの方向性を確認して次の段階へ | 1年 | 根力育成プログラム ①フレッシュマンゼミナール |
| 第二段階 | 根力強化プログラム 産学と実地体験を通して、 社会人として要求される能力を 理解・養成する | 2年 | 根力育成プログラム ②就業力育成 ステップアップ系 科目 根力強化 プログラム |
| 第三段階 | 根力実践プログラム 実際の活動を通して、 これまで培ってきた力を確認し、 不足点を自覚して、自ら求めていく | 3年 | 根力実践プログラム |
| | | 4年 | 根力実践プログラム |

プロジェクト実習の位置付け(1)

根力強化プログラム(2・3年次)
「プロジェクト実習スタッフ編」

根力実践プログラム(3・4年次)
「プロジェクト実習リーダー編」

来年度からさらに・・・

「プロジェクト実習メンター編」を新設

プロジェクト実習の位置付け(2)

水戸市近郊を主たるフィールド
「プロジェクト実習A」

遠郊を主たるフィールド
「プロジェクト実習B」

来年度からさらに・・・

国際交流・異文化理解をテーマとする

「プロジェクト実習C」

PBL型インターンシップをテーマとする

「プロジェクト実習D」

を新設

来年度からの構成

| 授業科目名 | プロジェクト実習 A | プロジェクト実習 B | プロジェクト実習 C | プロジェクト実習 D |
|---------------|---------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| テーマ | 未分化 | 地域連携 地域貢献 | 国際交流 異文化理解 | PBL型 インターンシップ |
| 段階 | 対象 学年 | | | |
| 根力強化 プログラム | 2・4年 | プロジェクト 実習A スタッフ編 | プロジェクト 実習B スタッフ編 | プロジェクト 実習C スタッフ編 |
| 根力実践 プログラム | 3・4年 | プロジェクト 実習A リーダー編 | プロジェクト 実習B リーダー編 | プロジェクト 実習C リーダー編 |
| | 4年 | プロジェクト 実習A メンター編 | プロジェクト 実習D メンター編 | プロジェクト 実習D メンター編 |

引き続き
どうぞ宜しく御願ひ申し上げます

常陸太田市里美地区との 連携事業に関する経緯

茨城大学人文学部
プロジェクト実習担当教員
鈴木 敦

大まかな流れ(1)

- 2010年・茨城大学「就業力G P」に採択される
- 2011年・里美地区に地域おこし協力隊三名
(長島・石川・笹川)着任
- ・茨城大学に蜂屋准教授着任
- 里美地区をフィールドとした
授業開設に向けた模索開始
- ・常磐大学・常磐短期大学と茨城大学
との間で連携協定締結
- ・常陸太田市、域学連携補助金に
採択される

大まかな流れ(2)

- 2012年・事業仕分けにより「就業力G P」打切
- ・蜂屋准教授による
「地域づくりプロジェクト実習」
(里美地区をフィールドとする、
常陸太田市・常磐大学・常磐短期大学
茨城キリスト教大学・茨城大学の
連携授業)開講
(現「プロジェクト実習B」)
- ・茨城キリスト教大学と茨城大学の間で
連携協定締結

大まかな流れ(3)

- 2013年・茨城大学「産業界のニーズに対応した
教育改善・充実体制整備事業」に採択
される
- ・茨城大学の要請を受け、常陸太田市が
地域おこし協力隊に「大学院生枠」を
新設
- ・蜂屋准教授、宇都宮大学に転出
- ・後任として、鈴木がプロジェクト実習
A・Bの担当教員を兼任
- ・里川カボチャがNHKテレビで紹介され、
好評を博す

大まかな流れ(4)

- 2014年・プロジェクト実習B活動報告会開催
- ・里美地区地域おこし協力隊三名、
任期満了に伴い退任(予定)

嗚呼、激動の4年間・・・(T_T)

そして・・・

連携の新段階へ向けて
今後ともどうぞ宜しく御願ひ申し上げます

ご清聴感謝申し上げます

鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp



地域おこし協力隊について

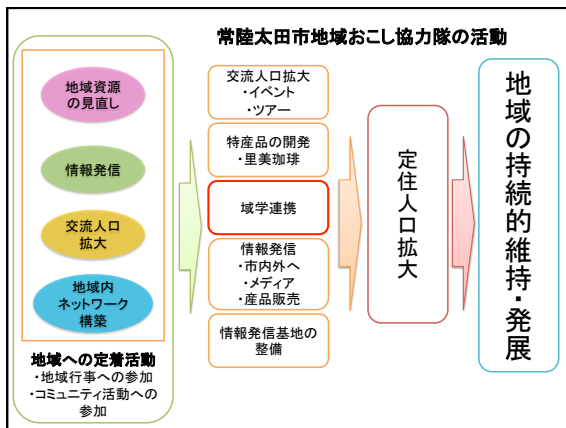
地域おこし協力隊

- ・平成21年度から始まった総務省の事業
- ・隊員は住民票を移し、地域で1～3年間活動
- ・平成24年度隊員数は617名(207自治体)

常陸太田市地域おこし協力隊

Relier: フランス語でつなぐ・むすぶという意味

- ・県内初の協力隊
- ・清泉女子大学地球市民学科とのつながりがきっかけで誕生



域学連携事業の目的

地域に変化を起こす**地球市民**の育成
地域に対して行動できる仲間を増やす

- ・地域のファンづくり
- ・地域に対する正しい価値観の伝達
- ・地域づくりや社会に貢献できる主体的な学生の育成
- ・将来の選択肢の拡大

総務省 域学連携事業での協力隊の役割

- ・大学、行政、地域間の連絡調整
- ・地域の情報やネットワークの共有
- ・プログラム開発のサポート
- ・履修者のサポート

学生と協力隊・行政・他団体の関わり

プロジェクト実習B

窓口: 企画課 井坂 協力隊: 石川 協力隊: 笹川

里美地区のみなさん

- グリーンふるさと振興機構
- 水戸市 泉町二丁目商店街振興組合

【協力隊から見た事業の成果】

- **単位化の実現**
→授業として継続性が生まれた
- **地域に対する正しい価値観の伝達**
→地域のファンの誕生: 里美を深く理解し、その魅力を発信
- →地域のファン→地域の担い手へと成長 **成**
「チーム さとみ・あい」サークルの誕生
 - ・授業以外での地域訪問
 - ・地域の中学校での講演会の企画・運営
 - ・非履修生を対象とした合宿の企画・運営
 - ・大学外との繋がり
- **将来の選択肢の拡大**
→地域おこし協力隊に興味を持つ学生

【協力隊から見た事業の課題】

- 授業の規模の拡大による障害
 - 農家民泊の受入先の不足
 - 協力隊側の対応が行き届かない
 - 交通手段の問題
 - 学生の意識の差
 - 引き継ぎの問題
 - 協力隊が担っている部分をどう埋めていくか
 - サークルとしての世代交代をどうするのか
- 地域への負担を軽減するために行政・大学側のサポート強化
- 自主性や責任感を持って地域で活動



来年度以降の期待

- **サークルとしての活動継続**
→サークル内の連携、リーダーシップ・意識の向上
後輩育成、合宿実施、他地域の事例研究など
- **里美地区の子どもたちと関わりを持つ**
- **里美地区外での発信拠点の整備**
→水戸市泉町二丁目商店街振興組合との連携強化など
- **里美地区との繋がり継続**
→ファンでいる、魅力PR、訪問、地域の方との交流
- **授業での学びを自分たちのフィールドで活かす**

日本の地方が、学生たちにとって
新たな価値観に出会える
学びの故郷になりますように。

そして学生たちが、
地域や社会を変える**地球市民**として
自分たちのフィールドで活躍できますように。

プレゼンバトルのルール(1)

発表 . . . 12分
*** 1分超過ごとに10点減点**
質疑応答 . . . 2分
発表者交代 . . . 1分

プレゼンバトルのルール(2)

採点資格

全3チームの発表をお聞き下さった方
採点

配布の採点表に、各チームの発表が終わり
次第、速やかに点数を記入して下さい

首位チームへの投票

採点の結果首位となったチームの色の
付箋を1枚、投票係にお渡し下さい

プレゼンバトルのルール(3)

採点方法

付箋1枚=1点として採点します

時間超過による減点

発表時間の超過1分ごとに10点を
減点します

首位決定

以上の合計をチームの得点とします

プレゼンバトルのルール(4)

首位チームには

伏見・茨城大学人文学部長より、
賞状と賞品が贈られます。

プレゼンバトルのルール(5)

頂上決戦へ！

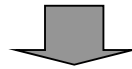
首位チームは、来る2月13日に
茨城大学水戸キャンパスで開催される
フォーラム
「アクティブラーニングの全学展開を
考える」の中で、
プロジェクト実習Aの首位チームとの
「プレゼンバトル頂上決戦」に臨みます

では . . .

ふあいとお~! <(-o-)/

<活動報告 採点用紙>

| | 里川カボチャ | 里美Café | 里美トラベル |
|-------------------|------------|------------|------------|
| 課題発見力 | /10 | /10 | /10 |
| 分析・構想力 | /10 | /10 | /10 |
| 実行力 | /10 | /10 | /10 |
| プロジェクトの達成度 | /10 | /10 | /10 |
| 地域への貢献度 | /10 | /10 | /10 |
| 学生の学びの深さ | /10 | /10 | /10 |
| 合 計 | /60 | /60 | /60 |
| 勝利チームを ○囲んで下さい | 里川カボチャ | 里美Café | 里美トラベル |



全チームの発表後に投票係が伺いますので、**勝利チームの色**の付箋をお渡しください

よろしければ、ひとことご感想を御願ひ致します

お手数ですが、下の欄にご記入ください(該当するものに○でご記入ください)

- ()里美地区住民の皆さん ()常陸太田市役所関係の方
 - ()大学生 (大学 学部 年)
 - ()大学・短大教職員(大学 学部・センター)
 - ()その他 ()
- ・本日の催しをどうやってお知りになりましたか？(いくつでも結構です)
- 1. ポスター・チラシ 2. 常陸太田市公報
 - 3. つながりぼん(里美地区地域おこし協力隊ニューズレター)
 - 4. 常陸太田地域おこし協力隊フェイスブックページ 5. 常陸太田地域おこし協力隊ブログ
 - 6. その他()

ご来場、ご協力ありがとうございました。この用紙はお帰りの際に受付の者にお渡しください。

さとみ・あいってなーに？



報告者 白土可奈子・番場有彩・板垣里沙

さとみ・あいとは

•さとみ・あいの由来・・・あい「愛」「会」
→里美を愛する、里美で会う

•メンバーは茨城大学、茨城キリスト大学の学生で構成されていて、約20人。「里美cafeチーム」「里川カボチャチーム」「里美トラベルチーム」に分かれている

活動目的

•魅力ある里美の地域資源を伝えること

伝え方は様々・・・

- カボチャの商品
 - one day Café
 - 日帰り旅行
 - 情報誌、パンフレット
- など

女子旅ツアー



女子旅in常陸太田

— あなたの知らない「いばらき」がきっと見つかる。
女子大生だけのステキ旅。

•9月14日に「独立法人グリーンふるさと進行機構」さんと共同で女子旅ツアーを企画・実施

- 小規模だったが、参加者に満足してもらえた
- 自分たちが里美の歴史・自然についてもっと学びたいと感じた



さとみ・あい合宿

- 「旬菜旬食」がテーマの講演会を開催
- 古民家に宿泊
- 里川カボチャの収穫
- ビブリオバトルin里美を開催

- 中学生と食の豊かさについて語り合えた。
- 非履修者を合宿に呼ぶことができた。
- 春から育てたカボチャを収穫することができた。
- ビブリオバトルで里美での学びが深まった。



里美の食材で夕食作り

One-Day Café@泉町会館

•里美野菜のカレーランチセット、里美ジェラート、飲み物(里美珈琲、のむヨーグルト)を販売

- 目標としていたカフェが実現できた。
- 水戸市周辺の方に里美をPRすることができた。
- 水戸市での活動基盤ができた。



秋の味覚祭

•里美ふれあい館で毎年11月上旬に開催されているお祭りで「里川カボチャのコロッケ」販売

•1時間で100個売れる
という大盛況！



学園祭

- シオン祭(茨城キリスト教大学)、茨苑祭(茨城大学)に出店
- 自分たちで育てた里川カボチャのポタージュ、ニンジン、おさとちゃん缶バッチを販売
- パンフレット、リーフレットの配布
→工夫しながら、自分たちの言葉で里美の魅力がPRできた。



行列がで
きるほど
大人気!!

書ききの
ポスター
でPR!!



ファーマーズマーケット

- 里美珈琲&おまんじゅうセット、おさとちゃん缶バッチを販売
- 写真(里美の自然、さとみ・あい活動風景、かぼちゃの成長記録)の展示

→水戸市周辺の方に里美をPRすることができた。
→写真の展示で、里美を身近に感じてもらった。
→レストラン×里川カボチャ企画案があがった。



里美の写真でPR!!

ものづくり企業フォーラム

- 技術商談会「常陽ものづくり企業フォーラム」に参加
- 里美のPR、里川カボチャの商品開発に向けての相談、さとみ・あいの活動紹介
→多くの方に里美、さとみ・あいに興味を持ってもらえた。
→来年の活動につながる話をする
ことができた。

手作りパンフレットを
持ってPR!!



この1年で制作したもの

- カボチャのリーフレット
- 里美を紹介するパンフレット
- かわら版
- おさとちゃん缶バッチ



おさとちゃん缶バッチデザイン



パンフレット
かわら版

メディア

- 活動の様子が「i-up vol.4」に掲載
(2013年10月31日発行)
- One day cafeが茨城新聞に掲載
(2013年9月11日 県北鹿行版)
- 里美味覚祭が茨城新聞に掲載
(2013年11月7日 県北鹿行版)
[2016年1月24日・記事等使用許可取得済]
- NHK水戸「とれたてワイドいばらき」に出演
(2013年11月15日放送)



成果

- 昨年と比べ、様々な場所でPR活動ができた
 - 活動がより認知されるようになった
 - 水戸周辺の人たちにも里美の魅力を伝えられた
- 地域の方々と、より親密になれた
- 非履修者にも里美に足を運んでもらえた

活動を通して学んだこと

- 「報・連・相」の大切さ
- いろんな世代の方々との接し方
- 働き方・生き方の多様性
- 食の大切さ・豊かさを実感



ご清聴ありがとう
ございました！



里川カボチャチーム

リーダー 白土可奈子
江畑一輝 佐々木えり
和田亮太 久慈望美 天内ありさ
岩瀬有紀 片寄美紀

カボチャチーム

私たちは、プロジェクト実習という茨城大学の授業で茨城県北の常陸太田市にある里美地区を舞台に地域参画活動を行っています。

学生の視点から豊かな里美地区の資源を再発見し、人々に伝えていくことがねらいです。

その中でカボチャチームは、里美地区でとれる里川カボチャに注目し、活動してきました。



里川カボチャとは

里川独自の環境で作られる里川カボチャは、皮の色が薄ピンクで甘くボクボクとした食感が特徴です。

私たちは里美の特産である里川カボチャの知名度を上げることで、里美の魅力も発信できるのではないかと考えました。



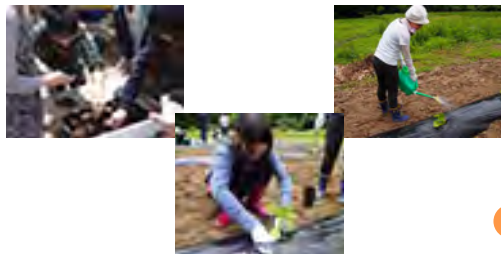
活動内容

1. 里川のカボチャを知るために農家の方と一から育てる。
2. 情報発信するためにリーフレットを作成する。
3. 里川カボチャを商品化し、里美のイベントである秋の味覚祭で出店する。



成果

1. 里川カボチャを自分たちの手で育てることで、カボチャを作るうえでの大変さや喜びを感じることができた。



成果

1. 里川カボチャを自分たちの手で育てることで、カボチャを作るうえでの大変さや喜びを感じることができた。



成果

2. 農家の方に直接インタビューをし、レシピ付のリーフレットを学生が作成することができました。



成果

3. 秋の味覚祭では里川カボチャコロッケを作り、1時間で100個売り上げました。同時に、学生が考案した里美のゆるキャラの缶バッジを販売したり、リーフレットを配布したりすることができました。



まとめ

1. 里川カボチャの商品開発により、おいしさを人々に伝えることができ、里川カボチャの知名度を向上することが出来ました。
2. 同時に里美地区の魅力も情報発信することが出来ました。
3. 自然豊かな里美地区で活動し、地域住民の優しさを肌で感じ、里美をより好きになりました。

これから

これからは学生が前面に出て活動するのではなく、あくまでも里美の人々が主役なので、みなさんの意見、考えを大切にしながら学生という外からの視点を提案し、活動していきたいです。



里美CAFÉチーム活動報告

活動の目的

学生視点で里美の魅力をPRする

今年度の活動

【イベント】

- 9/4 ONE-DAY CAFÉ @泉町会館
- 10/26 里美中学校 講演会
- 11/3 茨城キリスト教大学 シオン祭
- 11/9,11/10 茨城大学 茨苑祭

【情報発信】

- ・かわらばん(vo.1~vo.3)
- ・「里美旅のしおり」

ONE-DAY CAFÉ @泉町会館

【目的】

- ・水戸市周辺の方に里美をPRする
- ・里美の旬の野菜をつかった料理をとおして、「旬菜旬食」の良さを感じていただく

【方法】

- ・里美野菜のカレーランチセット、里美ジェラート、飲み物(里美珈琲・のむヨーグルト)の販売
- ・パネル展示
- ・お客様と会話を交えての接客



◀ 里美野菜のカレーランチ



泉町会館前にて ▶



【成果】

- ・カレーランチセット、飲み物、里美ジェラート全食完売
- ・目標としていたカフェが実現できた
- ・水戸市周辺の方に里美をPRすることができた
- ・水戸市での活動基盤ができた
 - ➡ ファーマーズマーケットにつながった

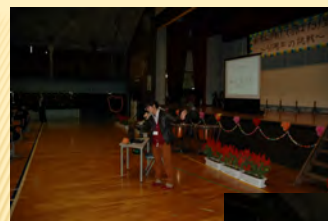
里美中学校 講演会

【目的】

- ・「地産旬食」を良さを知ってもらう
- ・里美の中学生と交流する

【方法】

- ・地域おこし協力隊の長島さんによる講演
- ・中学生と大学生が議論をする



【成果】

- ・里美中の中学生に「地産旬食」の良さを知ってもらえた
- ・議論という形式をとったため、中学生と大学生が相互に意見を交換することができた
- ・里美中との今後の連携の礎を作ることができた

茨城キリスト教大学・茨城大学 学園祭

【目的】

- ・学園祭に参加するたくさんの方に里美をPRする
- ・里美地区以外の方に里美の作物をおいしく食べていただく

【方法】

- ・里美で収穫した里川かぼちゃを調理、販売
- ・里美に関する掲示物作成、展示
- ・里美パンフレットの配布
- ・お客様と会話を交えての接客



茨苑祭2日目、里川カボチャのポターージュを求めて、たくさんの方が来てくれました！

【成果】

- ・全食完売
- ・自分たちで収穫した里美の作物を、里美に住んでいない方に提供することができた
- ・世代を問わず、様々な人に里美をPRすることができた
- ・里美へ足を運ぶきっかけを作ることができた
- ・PR力が上がった(準備、実践)
 - ⇒自分たち自身がより深く里美を知ることができた

かわら版

【動機・目的】
 里美地区内においても、大学内においても、私たちの活動の認知度が低い

⇒ 私たちが普段どのような活動をしているのか知ってもらうためにかわら版を発行

【方法】

- ・7月、8月、9月にかわら版を発行
- ・内容
その月のさとみ・あいの活動や次に行うイベントの紹介
- ・配布場所
道の駅さとみ、里美直売所、常陸太田市立図書館、常陸太田市役所、茨城大学 など

【成果】

- ・里美地区の方々や他の学生に私たちの活動を知ってもらうことが出来た
- ・里美の広報活動の場が増えた
- ・かわら版を見てイベントに来てくれた方がいた



パンフレット「里美たびのしおり」

【動機・目的】

昨年度からの活動の中で、里美には里美を紹介するパンフレットがないことに気がつく

- 「自分たちで里美のパンフレットを作りたい！」という思いから、学生目線で里美のよいところを紹介するパンフレットを作成

- ・ターゲットは大学生を中心とする若者
- ・里美で1日楽しんでもらえるような日帰りプランや里美の寄り道スポットなどを掲載
- ・学園祭や味覚祭などのイベントで配布

【成果】

- ・これまで里美になかった里美のパンフレットを作り出した
- ・里美をPRするための手段を作り出した



全体成果・まとめ

- ・多くの方に里美の魅力を伝え、里美を訪れるきっかけを作ることができた
- ・今後里美をPRしていくためのツールを生み出すことができた
- ・新たな活動の可能性が広がった

ご清聴ありがとうございました！



目次

1. 女子旅ツアー《準備編》
2. 女子旅ツアー《当日編》
3. 女子旅ツアーを実施して
4. 今後の課題と展開①
5. 今後の課題と展開②

- ## 目的
- 次世代を担う若者を県北に連れて行き、その魅力を発見してもらう
 - 「田舎は何もない」という偏見を取り除く
 - 農家体験・農家との交流を通して農家に興味を持ってもらう
 - ツアーをきっかけに中山間地域と若者の協力体制を築く

女子旅ツアー 《準備編》

名称
**「あなたの知らない「いばらき」がきっと見つかる
 女子大生だけのステキ旅in常陸太田」**
 女子だけ！→「女子旅」に
 「気軽に楽しめるツアー！」
 共同作業
 ・グリーンふるさとさま
 ・常陸太田市さま

- ## 女子旅ツアー 《当日編》
- 当日の日程**
- 8:30 水戸駅集合
 - 10:00 滝めぐりツアー開始
 - 13:00 むくもりの湯で入浴
 - 16:00 直売所立ち寄り
 - 18:00 水戸駅着・解散
-

- ## 女子旅ツアーを実施して
- 定期的な下見と話し合い
→ 予定通りにツアーを実施できた
 - 少人数でのツアー実施
→ スムーズにツアーを進めることができた
 - 女性目線のツアー内容
→ 温泉と滝めぐりが好評だった
 - ツアー参加者へのアンケート実施
→ ニーズの把握、来年度のツアープラン

今後の課題と展開①

- 「女子」に限らず、様々なバリエーションのツアーを企画したい！
- もっと観光・旅行のことを勉強したい！



- 学生にアンケートを実施／ニーズの把握
- 観光学担当の教員にお話を聞く／観光業界で働く人を講師として招く

今後の課題と展開②

- アンケート分析から、来年度は次のようなツアー企画に挑戦したい！
- テーマは「癒し!」「コスパ!」
- 古民家に宿泊・いろりを囲んで夕食を自分たちで作る
- 温泉&滝で癒される(季節も考慮 例:冬の滝ツアー)
- 有名な観光スポットと組み合わせる

ご清聴ありがとうございました！

